

図書案内 2017年 7・8月号

担当 3-1H 杉谷 3-7H 高橋

特集 涼しくなる本



夏です。毎日暑い日々が続きますが、今回は背筋をひんやりとさせるような恐ろしい結末を持った本を紹介します。**ホラー**だけではなく、厳然たる論理の上に築き上げられた**ミステリー小説**もあります。時には本を読んで冷涼感を味わってみませんか？
図書館にて貸出しています。



黒沼 香月日輪のこわい話 香月日輪／著

「幽霊や妖怪なんているわけがない」そう思っているあなた。では、幽霊でも妖怪でもない「なんだかわからないもの」に対しても果たして同じことが言えるでしょうか。香月日輪が送るどこか肌寒くなるような怪談短編集。これからの蒸し暑い夜のお供におすすめ。

「夢ばかりじゃ食っていけないわよ。現実なんて、ムナシくてキビシイものなんだから」

——『海を望む窓辺に』より

☆小泉八雲とは☆ 本名はラフカディオ・ハーンというイギリス人(八雲は帰化名)。異国の文化、特に日本文化に興味を持ち、1890年に来日、教職に就いて日本で生涯を全うした。妻のセツから聞いた民話などをもとに「雪女」や「耳無し芳一」など数々の有名な怪談を生み出した。日本文化や生活を熱心に研究し、日本の風土記の発展に大きく貢献した人物である。



妖怪・妖精譚 小泉八雲／著

この世に存在する数多くの妖怪・妖精には必ずと言っていいほど1つ1つにそれにまつわる伝承があります。それは時に恐ろしく、かつ美しくもあります。そんな伝承が人間の心の内面に迫りながら書き綴られた短編集です。あなたも小泉八雲が描く不思議に浸ってみませんか。

頭の両側から、生温かいどろどろしたものが、滴り落ちるのを感じました。しかし、芳一は手を上げようとしませんでした。

——『耳無し芳一』より



夢い羊たちの祝宴 米澤穂信／著

この本は、「フィニッシング・ストローク(最後の一撃)」に徹底的にこだわった連作集です。ラスト一行において、それまで想像した世界観や展開を一気に裏切り、時が止まったかのような驚きを与えてくれます。どうぞ、決して途中から読まないようにしてください。

殺人者は赤い手をしている。しかし彼らは手袋をしている。

——『北の館の罪人』より



『人間腸詰』ちくま日本文学全集より 夢野久作／著

アメリカで催される博覧会のために台湾から渡った大工が、ギャングに仕事をしろと脅迫されます。虫の知らせで仕事を断り続けた彼が、大きな挽肉機械の前で見つけたものとは……？ この本には、他にもいくつかの話が収録されていますので、ぜひ目を通してみてください。

……へエ……あの話。あの話と申しますと？ へエ。世界が丸いお陰で、あっしが腸詰になり損なった話……。

☆腸詰の作り方☆

1. 原料をカット ～ 粗挽き
 2. 塩せき(原料肉を食塩や発色剤などとともに一定期間漬け込むことを云い、特有の風味を醸成し、ボツリヌス菌の生育を抑制する効果がある) ～ 混和
 3. 羊腸に充填
 4. くん煙 ～ ボイル
- 上記の工程を経ておいしいウインナーソーセージが出来上がります。昔は加工食品の保存には缶詰が主流でしたが、現代では、食品工業の技術が発展し、びん漬け、冷凍食品、レトルト食品といった様々な加工食品が登場しています。



缶入り腸詰

☆恐怖をコントロールする脳の小さな器官☆

古典的恐怖は脳内にあるアーモンド状をした1対の器官(扁桃体)で発生する。各々の扁桃体はこめかみから約4cm弱、奥に入った所に位置している。視覚、嗅覚、聴覚、触覚等のシグナルは感覚器から入り扁桃体に送られる。扁桃体から更に脳の他の部分に送られて、ここからは不随意反応である心拍を早め瞳孔を拡大し、血液を足の筋肉に送りこむシグナルが体の各部に送られる。この時に皮膚からは血液は引き、汗腺が活発に活動する。だから我々が恐怖を感じた時に顔面が蒼白となり、冷や汗が垂れる。

【出典】http://mui-therapy.org/newfinding/primitive_control_fear.htm